

参加無料

定員100名

公開ワークショップ

JAPAN  
OPEN SCIENCE  
SUMMIT 2018シチズンサイエンスから  
共創型イノベーションへの  
Next Step

ICTの活用によるオープンサイエンスの進展は科学の民主化を進め、誰でも興味さえあれば科学情報を利用できるようになりました。さらに、科学者と市民の距離が近くなることで、シチズンサイエンスにも新たな局面をもたらし、市民と共創することが前提の科学研究プロジェクトが日本でも生まれています。このような共創の取組は、市民の科学リテラシーを向上するだけでなく、研究の様々な過程で新たな視点や発想を生むことに繋がり、イノベーションを生み出す新たな基盤の形成、定着につながる可能性もあります。本セッションでは、共創型研究の事例と課題を紹介しつつその可能性を再考します。





共創型イノベーションはどのように生まれうるのか、生むために何が必要なのか、ともに議論しませんか。

06.18 月

学術総合センター 一橋講堂  
中会議場B (2F)参加登録先はこちら↓  
<https://joss2018.peatix.com/>

14:30～16:00

(JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT2018内)

|                     |  |   |
|---------------------|--|---|
| 14:30-14:35<br>趣旨説明 | <b>林和弘 (はやしかずひろ)</b><br>文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター<br>上席研究官  |                            |
| 14:35-15:05<br>話題提供 | <b>臼田-佐藤 功美子 (うすだ-さとう くみこ)</b><br>国立天文台 特任専門員<br>「“シチズンサイエンス”への期待と課題—<br>国立天文台“市民天文学”の取り組みから」  |                            |
|                     | <b>大澤 剛士 (おおさわ たけし)</b><br>首都大学東京 都市環境学部/都市環境科学研究科 准教授<br>「シチズンサイエンス≠オープンサイエンス?<br>広がる可能性と落とし穴」  |                            |
|                     | <b>江渡 浩一郎 (えとこういちろう)</b><br>国立研究開発法人産業技術総合研究所 知能システム研究部門<br>スマートコミュニケーション研究グループ 主任研究員<br>ニコニコ学会β交流協会会長<br>「日本が真のイノベーションを生み出すには—<br>ニコニコ学会βを振り返る」 | <br><small>撮影：本田雄士</small> |
| 15:05-15:55         | ディスカッション   | ※ワークショップに先立ち、シチズンサイエンスを含む共創型の研究活動を実践した研究者等を対象としたアンケートを行っています。共創型の研究活動の可能性を概観したい方は、ぜひご参加ください。                    |
| 15:55-16:00         | まとめ  |   |

**主催：**文部科学省科学技術・学術政策研究所、国立研究開発法人科学技術振興機構

**申込み：**参加を希望される方は、JAPAN OPEN SCIENCE SUMMIT2018への参加登録をお願いします。  
申込みサイト⇒<https://joss2018.peatix.com/>